

人文系/基礎科目

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
哲学A	生と死の意味について考える	篠原 隆	1年次前期
講義の目的	人類の遠い記憶である神話や無意識の深層心理の世界を覗くことによって、我々の生の根源について考え、我々の価値観を再検討し、生きる意味について考える。学生諸君は、生についての様々な視点について学び、自らの死生観を捉えなおし、今生きていることの意味を考え直す機会を得ることができる。「私とは何か」という哲学の基本問題に立ち向かう。		
到達目標	生の始原について、神話、ギリシャ悲劇、精神分析等を題材にして、様々な視点から、自らの存在の意味について、論理的に語るができる。また、自らの死生観を持つことができる。		
内容講義	生・老・病・死という生の4つのステージの中で、生だけしか肯定できず、他のステージを否定するのなら、自己の存在をどうして肯定できるだろうか。死と生が切り離すことができないなら、生だけを肯定できるのだろうか。		
講義スケジュール	第1講	ガイダンス1 私とは何か 見ることと見えるものについて	
	第2講	ガイダンス2 鏡と私	
	第3講	第1部「我々はどこから来たのか」開始 始源のイメージ 大蛇と書いて母と読む	
	第4講	太母神 母と息子の恐ろしい関係 産む=殺す アルテミスとアマゾン軍団	
	第5講	第2部「我々は何者か」開始 抑圧の世界としての文明 『オイディプス王』 汝自身を知れ、見えないもの	
	第6講	フロイトの「エディプス・コンプレックス」 我が内なる父 無意識と超自我	
	第7講	映画『アポロンの地獄』を見る 有名な「人生は始まったところで終わる」という台詞の意味を知れ	
	第8講	悲劇『エレクトラ』夫は他人だ、歴史的裁判 母は生みの親ではない！ 男がはらむ、これが常識だった	
	第9講	天地創造とは母親殺しと死体解体の物語 アダム最初の妻リト 男尊女卑と女性恐怖症	
	第10講	エデンの園で起こったこと 母という名の妻 なぜ蛇は女の顔をしているのか	
	第11講	男の理想聖母マリア 処女=母=妻 太母神化するマリア	
	第12講	集団インポテンツと魔女狩り 誘惑者としての魔女 男のジレンマ (好きだ、でも怖い) レイプ魔の論理	
	第13講	イエスの女性観 イエスの妻 父は母の息子にして母の強姦者 (グノーシス神話)	
	第14講	ロックミュージカル『ジーザス・クライスト スーパースター』を見る	
	第15講	第3部「我々はどこに行くのか」抑圧としての生 エロス (愛) とタナトス (死)	
方法指導	講義を中心とし、毎回資料を配布する。映像資料を満載し、視覚的に捉えられるようにする。毎回、感想・意見を書いてもらい、次回冒頭でコメント・討論する。パワーポイントを使用する。		
授業外学習	配布した資料に基づき、インターネットなどを通じて、事前に調べて、授業内ディスカッションで発表する。また、疑問点、興味を持った事項について調べ、次回の授業内アンケートに記入する。		
成績評価方法	本試験 (筆記試験、全て持ち込み可) 80%、平常点 (授業内発言、レポート、授業内アンケート質問) 20%		
ステキ	使用しない		
参考書籍	ニーチェ:『悲劇の誕生』岩波文庫 ソボクレス:『オイディプス王』岩波文庫 『旧約聖書 創世記』岩波文庫 『トマスによる福音書』講談社学術文庫		
事項特記	授業内私語 許さない。出席条件厳守。		